

## 研究論文

# 教師の成長を促す研修用教材 「クロスロード 教育相談編」開発の試みⅡ －教師の葛藤と判断傾向の分析－

網谷 綾香\*   ・  岡本 尚子\*\*   ・  細川 美幸\*\*\*

## Development of the Training Material “Crossroad-Educational Counseling Version” Ⅱ : Analysis of Teacher's Conflicts and Judgment Trend

Ayaka AMITANI\*, Naoko OKAMOTO\*\* and Miyuki HOSOKAWA\*\*\*

### 【要約】

本稿では、教師の葛藤を活用した研修用教材「クロスロード 教育相談編」の開発手続きを呈示し、教材の内容について紹介した。また、小学校・中学校・高等学校の教師に「クロスロード 教育相談編」の質問紙版を実施し、各葛藤場面で教師がどのような判断をするのかについて260名の回答傾向を分析した。

### 【キーワード】

クロスロード、教育相談、教員研修、教師の葛藤

## 1. 目的

「クロスロード 教育相談編」は2015年7月に完成した新しい研修用教材である。教育相談上の問題に真摯に対峙し、悩み、考え続ける教師の成長を支えるための1つのツールとして我々が開発した。「クロスロード」は、矢守・吉川・網代(2005)が防災対応シミュレーションゲームとして開発した手法であり、本教材では許可を得てその手法を援用している。対象は主に小学校、中学校、高等学校の教師で、教育相談に関連する研修会での使用を想定している。研修の参加者は5名程度のグループを作り、トランプ大のカードを使用したシミュレーションゲームを行いながら教育相談について対話を深めていく。本教材を開発するにあたっての背景については、昨年度報告した「クロスロード 教育相談編」開発の試みの第一報(網谷, 2014)を参照されたい。

本稿では、完成版の「クロスロード 教育相談編」の開発のプロセスを呈示し、教材の内容について紹介する。また、開発した教材の特性につ

て把握し研修における効果的な使用のあり方について検討するために、「クロスロード 教育相談編」の質問紙版を実施し、その回答傾向を分析する。

## 2. 教材の詳細

### (1) 教材の開発手続き

まず、教材を開発する前にオリジナル版の開発者であるチームクロスロードと覚書を交わし、制作の許可を得た。著作権はチームクロスロードと網谷の共有である。具体的な教材の仕様については、防災教育用の「クロスロード」(矢守ら, 2005)および「クロスロード 発達支援者版」(梅崎・坂口, 2010)を参考にした。

ゲームで提示する葛藤状況のシナリオを作成するための基礎データを収集することを目的として、小学校・中学校・高校の教師を対象とした質問紙調査を実施した。調査では、教師がこれまでに教育相談上で抱いた葛藤について自由記述により回答を求めた。調査の詳細については網谷(2014)に報告した。質問紙調査により収集された様々な

\*佐賀大学文化教育学部   \*\*鳥栖市立旭小学校

\*\*\*九州大谷短期大学

葛藤場面の中から、多くの教師が体験する可能性がある典型的な事例や、教育相談に対する理解を深める上で取り上げる価値があると思われる事例を現職教員の意見を聞きながら抽出し、リストを作成した。また、臨床心理学が専門の研究者でスクールカウンセラーの経験がある者、臨床心理士の資格を持ち教育相談の経験が豊富な小学校教師、学校心理士の資格を持ち教育相談の経験が豊富な中学校教師が、これまでに教育現場において実際に遭遇した出来事をもとに葛藤状況のシナリオを作成した。

以上の手続きにより39場面の葛藤状況のシナリオ案を作成し、それを筆者ら3名が協議した上で削除や修正を加え、最終的なシナリオ36場面を確定した(表1)。「クロスロード」ではゲームを通しての対話が重要となるため、あまり細かい状況は呈示せずに参加者がそれぞれの観点から状況を想像できたほうがよい。そこで、シナリオはいずれも130字以内の2～4文からなる短い文章となるよう工夫した。各場面で参加者は「担任」や「養護教諭」などの立場に立ったと仮定して判断を行う。36場面のうち、担任23、教育相談担当5、養護教諭3、管理職2、教科担任2、部活動顧問1場面となった。シナリオは概ね小学校から高校までいずれの学校種の教師でも共通して用いることがで

きるが、葛藤場面では「生徒」という用語を使用してあるため、小学校教師を対象とする研修会では各参加者に「生徒」を「児童」に置き換えて考えてもらうこととした。また、たとえばNo. 36は「保護者に特別支援学級を勧めるか否か」という葛藤場面であるため、高等学校では想定しにくい。このようなカードは高校教師のみが参加する研修会では外して使用することとした。

この36項目のシナリオを用いた試行版を作成し、実際に教師を対象として研修会を行い、問題がなかうかどうか確認した上で、カードゲームとしてのデザイン性にも配慮した完成版を印刷した。

## (2) 教材の内容

「クロスロード 教育相談編」では、以下の6つの内容物が1セットになって箱に収められている(図1参照)。1セットで最大8名までプレイすることができる。

①問題カード：36枚。No. 1～No. 36までのカードには、教育相談上での様々な葛藤場面が提示されている。

<例> あなたは担任 4月に家庭訪問したところ、不登校傾向の生徒の保護者が「子どもが学校を休みたいと言ったら休ませます」と言う。あなたは保護者に同意する？(No. 11)



図1 研修用教材「クロスロード 教育相談編」

そして、このような葛藤場面で教師がどのように決断するかがYES, NOで問われる。カードには、担任のほか「あなたは養護教諭」「あなたは教育相談担当者」など、様々な立場の教師の葛藤を想定したカードがある。研修では全部のカードを場に提示してもよいし、研修の目的や参加者に応じてカードを絞り込んで使用することもできる。

- ②ラッキーカード：2枚。問題カードの中に混ぜて使用する。このカードを引いた場合、次の問題で正解すると座布団カードを2枚獲得することができる。
- ③YES, NOカード：各8枚。参加者にYES, NOカードを1枚ずつ配布する。
- ④座布団カード：「金の座布団」40枚、「青の座布団」200枚。ゲームのポイントとして獲得されるカードである。獲得した座布団カードが多い者がゲームの勝者となる。
- ⑤ゲームの流れ・遊び方の説明シート：8枚。参加者に1枚ずつ配布し、ゲームの流れや座布団カードの獲得方法などについて説明する。
- ⑥解説書：1冊。

### (3) ゲームの流れ

本教材を用いたゲームの流れは以下の通りである。まず、5人程度のグループを作る。多数決を取るため、できれば奇数人数でグループを作るのがよい。問題カードと座布団カードをテーブルに置き、参加者は「Yesカード」と「Noカード」を1枚ずつ持つ。順番を決めて問題カードを読み上げ、グループのメンバーの多数派の意見を全員が予測する。手持ちのYES, NOカードを選び、裏にしたまま場に出す。問題カードを読み上げた人の「オープン」のかけ声で、一斉にカードを表に返す。多数派の意見を当てた人は、「青の座布団」を1枚獲得する。例外として、少数派でもその人がグループでただ1人の意見を出した場合には「金の座布団」を1枚獲得することができる（この場合、多数派の人は座布団をもらえない）。なお、オリジナルの「クロスロード」では、多数派予測ではなく自分の意見を表明する方法もあるが、「クロスロード 教育相談編」では、敢えて多数派

予測のみの手法を取っている。多数派予測の場合、自分の意見については表明しても表明しなくてもよい<sup>1</sup>。その分心理的な負担が軽減され、よりゲームとして楽しみながら参加することが可能となると考えたからである<sup>2</sup>。また、多数派を当てるためには、まず自分の意見を考えた上で他者の意見を予測する必要がある、その思考プロセスの中で自分の判断や常識を超えた考え方にたどり着く可能性もある。

以上の手続きを問題カードごとに繰り返し、最終的に座布団を多く獲得したものがゲームの勝者となる。

ゲームの途中やゲーム終了後に、参加者はなぜ自分がその判断をしたのかグループで話し合う。解説書には、ディスカッションを促すために想定される葛藤の一例と簡単な解説文を載せているので、それを活用することもできる。

## 3. 「クロスロード 教育相談編」質問紙版

### (1) 調査の目的

「クロスロード 教育相談編」質問紙版は、開発した教材の項目について、質問紙調査の形式で呈示し回答を求めるものである。矢守（2009）は「クロスロード」について、“特定の設問に対して、イエス／ノーのいずれの回答が選好される傾向にあるのかを知っておくことは、（中略）現実意思決定を行う必要がある当事者にとっては、有用な情報であろう”と述べ、質問紙版により「世論」を探ることの意義を指摘している。矢守（2009）も指摘するように、多数の支持を受けた回答が必ずしもその葛藤場面での「最適解（正解）」であるわけではない。しかし、多くの者がどのような判断をするのかについての情報をもとに、自分自身の判断傾向について洞察したり、様々な状況を

<sup>1</sup> 実際には、ディスカッションにおいて自分自身の意見を自発的に表明する者も多い。

<sup>2</sup> 「ゲーム感覚」は非常に重要であり、自由な意見交換を促進する要因の1つである。またゲームでは、意表について、少数意見に与えられる「金座布団」を狙うこともできる。あえて常識的な判断の裏を考えることで、新たな意見が見出される可能性が高まる。



シミュレーションしたりすることもできる。さらに、敢えて「世論」とは異なる逆の意見について考えたりすることもできるであろう。

本調査は、「クロスロード 教育相談編」に対する教師の平均的な回答傾向を基礎データとして収集することを目的として行った。また、意見が割れやすいカードや逆に意見が偏りやすいカード、教師にとって判断が難しいカードなど、本教材の特性について把握することで、研修における効果的な使用のあり方についても検討する。

## (2) 方法

**手続き** A県が主催する教師対象の研修会会場において質問紙を配布し、調査の趣旨を説明した上で無記名により回答を求めた。

**調査対象者** 教師305名の回答を得たが、このうち幼稚園と特別支援学校の教師をのぞく回答に不備のない260名を今回の有効回答者として分析することとした。有効回答者の内訳は、小学校104名、中学校86名、高等学校70名であり、男性163名、女性97名となった。年齢は20代10名、30代70名、40代71名、50代109名であった。また260名のうち、管理職が110名、養護教諭が13名、教育相談担当教諭が12名であった。

**調査時期** 2015年4月から8月

**質問紙の内容** 「クロスロード 教育相談編」の問題カードに記載してある36の葛藤場面を呈示し、「あなたが教育相談上で下記のような葛藤場面を体験したとします。その時、あなたはどのような判断をしますか。担任や教育相談担当など、それぞれの立場になったと仮定して、YES、NOのいずれか1つに○をつけてお答え下さい。提示された状況は、あいまいで判断に迷う場面がほとんどですが、ご自身なりに判断してお答え下さい」と教示した。なお、小学校教諭には、「生徒」を「児童」に読みかえて回答するよう指示した。

また、36項目の中で、特に判断が難しく迷った葛藤場面を3つ選択させ、なぜその葛藤場面で迷ったのか、最終的になぜその判断をしたのかについて尋ねた。

## (3) 結果と考察

表1に「クロスロード 教育相談編」質問紙版に

対する教師の回答傾向を示した。また、表2は、特に判断が難しく迷った葛藤場面として選択された項目を、人数が多い順に示したものである。

表1より、YESもしくはNOのどちらかに極端に意見が偏っていた項目は、No. 5, 16, 29, 30, 32, 34, 35などであった。特に、No. 5, 29, 34, 35については、9割以上がYESまたはNOと判断しており、非常に極端な偏りがみられた。このような項目は、実際に「クロスロード 教育相談編」を使ってゲームを行った場合に、グループの全員がYESまたはNOと判断し、それが“多数派意見である”と予測する可能性もある。しかし、この場合に注意すべき点は、必ずしもその意見が参加者の真意であるかどうか分からないし、実際にそのような場面に会った時に彼らがそのように行動するかどうか分からないという点である。矢守（2009）は、“質問紙調査の結果が、必ずしも回答者の真意を表現するわけではないことは言うまでもない。むしろ、社会的期待・規範を先取りした「あるべき論」がデータとして表れることも多い”としているが、本調査の結果でもそのような傾向が見られた可能性もある。

9 : 1以上の意見の偏りがみられた4項目に注目すると、No. 29, 34は、いずれも生徒に生じている問題を“担任に報告すべきか否か”の問いである。しかも、その問題はいずれも“いじめ”に関するものである。一方No. 5は、生徒の問題を“保護者に連絡するか否か”の葛藤場面であるが、これも“嫌がらせ”といういじめも想定されそうな場面である。教育現場では一般的に“報告すること”は非常に重要であり、それが原理原則となっている。特に、いじめ問題については、教職員間で密接な情報交換により共通認識を持って対応すべきであり、家庭とも連携を図りながら解決を進めていくことが求められているため、このようにはっきりとした回答の偏りがみられたのではないだろうか。またNo. 35は、“教師の悪口を言う生徒に注意をするか否か”という場面であり、これについても一般的には教師という立場であれば当然指導すべき場面であろう。

表1 問題カードに呈示した葛藤場面および質問紙版における教師の回答傾向

No.	葛藤場面	回答（YES/NO）の比率（％）	
1	あなたは担任 友達関係に悩んでいる女子生徒の相談にのっていたところ、彼女が「いつもありがとう」とバレンタインチョコを持ってきた。学校ではチョコを持ってこないよう指導している。あなたはチョコを受け取る？	YES（受け取る）	55.0
		NO（受け取らない）	45.0
2	あなたは担任 不登校の生徒が家庭訪問を嫌がり、全く会えない。せめてプリントを届けるだけでも週に1度、家庭訪問していたが、保護者から「プレッシャーになるから遠慮して」と言われた。あなたは家庭訪問をやめる？	YES（やめる）	68.5
		NO（やめない）	31.5
3	あなたは担任 書くことが苦手で、学習障害が疑われる生徒。宿題を提出しないことが多く、授業中もノートをほとんど取らないため、周りの子には不公平に感じている様子。あなたは、授業中にノートを取るよう促す？	YES（促す）	69.2
		NO（促さない）	30.8
4	あなたは担任 下校時、生徒が「靴箱に下靴が見当たらない。Aさんが隠したと思う」と訴えてきた。ちょうどAさんは帰ろうとしている。あなたは、すぐに呼びとめて話をきく？	YES（話をきく）	76.5
		NO（きかない）	23.5
5	あなたは担任 たびたび友達に嫌がらせをする生徒。家庭に連絡すると、保護者は「それくらいはいいでしょう」と反論する。数日後、また同じような出来事が起きた。あなたは保護者に連絡する？	YES（連絡する）	93.5
		NO（連絡しない）	6.5
6	あなたは担任 同学年の担任のA先生は、授業中に私語をやめない生徒に困っている。A先生から、授業中に教室に入ってその子を注意してほしいと頼まれた。あなたは、授業に入り注意する？	YES（注意する）	61.2
		NO（注意しない）	38.8
7	あなたは担任 ある生徒Aの持ち物がなくなる事件が頻繁に起きたが、Aの自作自演であるようだ。保護者は本人の言い分を信じ、他の生徒Bを疑っている。あなたは保護者に本人の自作自演の可能性が高いことを伝える？	YES（伝える）	46.9
		NO（伝えない）	53.1
8	あなたは担任 ある生徒が急に学校を休みはじめた。学校では特に問題はなさそうだったが、以前書いた作文に両親の不仲に関する悩みが書いてあった。あなたは家庭にそのことを伝える？	YES（伝える）	65.4
		NO（伝えない）	34.6
9	あなたは担任 ある生徒が本人の学力では明らかに難しい学校への進学を希望している。保護者は実力にあった学校を望んでおり、あなたに説得してほしいと頼んできた。あなたは生徒を説得する？	YES（説得する）	72.3
		NO（説得しない）	27.7
10	あなたは担任 昨年度担任したAが、転任先の学校に手紙を送ってきた。今のクラスの友達関係に悩んでいるという。あなたは、Aの今の担任に連絡する？	YES（連絡する）	63.8
		NO（連絡しない）	36.2
11	あなたは担任 4月に家庭訪問したところ、不登校傾向の生徒の保護者が「子どもが学校を休みたいと言ったら休ませます」と言う。あなたは保護者に同意する？	YES（同意する）	51.2
		NO（同意しない）	48.8
12	あなたは担任 友達に嫌がらせしていたAを指導したところ、素直に認め友達に謝罪した。連絡帳で家庭に報告すると、その晩、保護者からクレームの電話があった。「いじわるはしていない。先生が怖かったから謝った」とAが話しているという。あなたは、母親に謝罪する？	YES（謝罪する）	45.0
		NO（謝罪しない）	55.0
13	あなたは担任 新しく受け持ったクラスには場面緘黙の生徒がおり、学校では全く話をしない。あなたは、クラスの子供達にその子が場面緘黙であることを話す？	YES（話す）	55.4
		NO（話さない）	44.6
14	あなたは担任 友達の物を勝手に取るなどの問題行動がある生徒。保護者は、子どもが悪いことをすると食事を抜いたり叩いたりしているよう。あなたは問題行動を家庭に報告する？	YES（報告する）	71.5
		NO（報告しない）	28.5
15	あなたは担任 授業でスポーツ障害を負った人の話を教材として取り上げたところ、保護者から「運動を怖がるようになったのでやめてほしい」とクレームがあった。あなたは、その教材を使うのをやめる？	YES（やめる）	33.8
		NO（やめない）	66.2
16	あなたは担任 頻繁に腹痛を訴えて保健室に行く生徒。ある日、保健室をのぞくと、その生徒は元気に走り回っていた。あなたは教室に戻るよう促す？	YES（促す）	85.0
		NO（促さない）	15.0
17	あなたは担任 ある生徒は午前中元気がなく、給食になると異様に食べお替りも尋常でない。生徒に聞くと、朝食は用意されていないようである。あなたは保護者に朝ごはんを食べさせるように言う？	YES（言う）	80.4
		NO（言わない）	19.6
18	あなたは担任 ある不登校の生徒の保護者に携帯の番号を教えたところ、夜中や早朝にも頻繁に電話やショートメールが入ってくるようになった。あなたは電話に出る？	YES（出る）	42.3
		NO（出ない）	57.7

19	あなたは担任 明日は卒業式。不登校傾向のあった生徒が「式には出席したくない」と言い張っている。あなたは出席するよう説得する？	YES（説得する）	80.4
		NO（説得しない）	19.6
20	あなたは担任 病気入院していた生徒が退院したが、今まで仲の良かったグループの友達が離れ、孤立している様子。本人は「特に問題ない」という。あなたは、仲を取り持つような介入を行う？	YES（介入を行う）	53.8
		NO（介入しない）	46.2
21	あなたは担任 管理職から次年度にあるクラスの担任を任せたいと言われた。しかし、そのクラスには自分と相性の合わない生徒がいる。あなたは、断る？	YES（断る）	21.5
		NO（断らない）	78.5
22	あなたは担任 最近、自分の子どもが不登校傾向になった。わが子への対応に時間を取られ、朝はいつも遅刻しがち。今日は勤務校の大事な行事の日。どうしても早めに出勤したいが、子どもの調子が悪い。あなたは、わが子に対応するために遅刻していく？	YES（遅刻する）	56.2
		NO（遅刻しない）	43.8
23	あなたは教育相談担当 手作りのカードゲームが教育相談室ではやり、皆楽しそうにしている。その様子を見た学年主任から、「相談室でのカードゲームはいかがなものか」と苦言を呈された。あなたは相談室でのカードゲームを禁止する？	YES（禁止する）	26.2
		NO（禁止しない）	73.8
24	あなたは教育相談担当 もうすぐ卒業式。ある女子生徒が突然、「自分は男だから男子の制服で卒業式に出席したい」と訴えてきた。管理職に相談すると、「それは認められない。本来の制服で出席するよう説得してほしい」という。あなたは女子生徒を説得する？	YES（説得する）	66.9
		NO（説得しない）	33.1
25	あなたは教育相談担当 ある保護者がスクールカウンセラーの助言を受けて子どもに関わっている。しかし、カウンセラーの助言は適切であるようには見えない。あなたは、カウンセラーに意見する？	YES（意見する）	72.3
		NO（意見しない）	27.7
26	あなたは教育相談担当 ある生徒がクラスや担任になじめず自分のところにばかりくる。あなたはその生徒との関わりを十分にとる？	YES（十分に関わる）	83.1
		NO（距離をおく）	16.9
27	あなたは教育相談担当 相談室登校をしているAの保護者が「うちの子はBがいるので相談室に行きたくないと言っている。Bと部屋を別にしてほしい」と訴えてきた。あなたは訴えを聞き入れる？	YES（聞き入れる）	57.7
		NO（聞き入れない）	42.3
28	あなたは養護教諭 頻繁に保健室に来室する生徒が「担任が怖いので嫌い」と話した。あなたは、担任に生徒が怖がっていることを話す？	YES（話す）	82.3
		NO（話さない）	17.7
29	あなたは養護教諭 あるクラスの生徒があなたにクラスのなかでいじめがあっていることを告げた。生徒は「誰にも言わないで」と言っている。あなたは担任にいじめのことを報告する？	YES（報告する）	94.6
		NO（報告しない）	5.4
30	あなたは養護教諭 ある不登校生徒が、毎日保健室に来るようになった。学校には教育相談室もあり職員がついているが、その子は保健室がいいという。あなたは、生徒を受け入れる？	YES（受け入れる）	85.4
		NO（受け入れない）	14.6
31	あなたは管理職 教育相談担当のA先生は、ベテランで生徒への関わりも熱心。しかし同僚への期待が高すぎて協調性が乱れがちにみえる。あなたはA先生に注意を促す？	YES（注意を促す）	81.2
		NO（促さない）	18.8
32	あなたは管理職 ある生徒の不登校が長期化している。ある時、担任から家庭訪問の同伴を求められた。あなたは行く？	YES（行く）	87.3
		NO（行かない）	12.7
33	あなたは教科担任 授業中に落ち着かず、パニックを起こしたり教室を出ようとしたりする発達障害の生徒。人手が足りないため、あなたはその個別対応に時間を取られ、なかなか授業が進まない。もうすぐ学年末。あなたは、ひとまず授業を優先させる？	YES（優先させる）	80.8
		NO（優先させない）	19.2
34	あなたは教科担任 あなたが担当する音楽の授業中、ある生徒が友達にからかわれているように見える。担任は学級経営もしっかりしているベテラン教師。あなたは、担任にこのことを報告する？	YES（報告する）	98.8
		NO（報告しない）	1.2
35	あなたは部活動顧問 部活動中に生徒たちと雑談していると、生徒たちはある教師についての不満を語り、「加齢臭がする」などと悪口で盛り上がってしまった。あなたは生徒たちを注意する？	YES（注意する）	95.8
		NO（注意しない）	4.2
36	あなたは担任 衝動性が高く、友達に頻繁に手を出し、けがを負わせてしまうことがある生徒。発達障害の診断が出ているが、保護者は通常学級を強く希望している。他の保護者からは、来年から特別支援学級に入れてほしいと要望が出た。あなたは保護者に特別支援学級を勧める？	YES（勧める）	78.9
		NO（勧めない）	21.1

※No. に網掛けした項目は、特に意見が偏った項目

※No. 36は小中学校の教師（190名）のみの回答



したがって一般論でいえば、これらの項目は教師にとってあまり葛藤する余地がない項目であり、そのために意見が偏ったとみることもできる。しかし、合わせて表2を分析してみると、たとえばNo. 29の項目（養護教諭：いじめられた生徒が「誰にも言わないで」と言っているが担任に報告するか否か）を特に判断が難しかった場面として選択した者も21名と少なからず存在していることが分かる。また、数は少ないもののNo. 5, 35, 34についても特に判断が難しかったとして選択した者がいる。一方、表2において判断が難しかったカードの第2位と第4位にあがっているNo. 36およびNo. 33も、8割近くがYESと答えており回答の偏りがある。以上のことから、回答傾向がYESかNOに偏ることが“葛藤しない”ことを意味するものではない、ということが分かる。もちろん中にはさして葛藤せず、即座にYESかNOの判断をする者もいるだろう。このような者にとってこそ、ゲームを通して他者の葛藤に学ぶことの意義が大きくなるのではないだろうか。したがって、意見が偏りやすい問題カードをゲームで使用する際には、「あるべき論」に終わらないディスカッションが促進されるよう配慮する必要がある。たとえば、ゲーム開始前に進行役が「必ずしも“正解”はない」ことを強調したり、ディスカッションにおいて多様な意見が出ない場合には問題カードで想定した状況や条件を変えて考えてみるよう促したり、解説書を用いて少数派の意見を紹介したりするなどの工夫が考えられる。また、『クロスロード実施の手引き（市民編）』（吉川ら、2009）においては、ゲームの応用ルールとして、新しい論点を促す「カラオケマイクルール」<sup>3</sup>や少数派意見の者に青座布団を与える「裏読み少数派ルール」<sup>4</sup>などが紹介されている。これらのルールを活用することも有効であろう。

<sup>3</sup> 順番に1人ずつ「親」となり、最初は親が青座布団を持つ。親が意見を言ったあと、次に新しい論点を出した人に青座布団を移動させる。論点が出つくすまで座布団を移動させ、最後の意見を言った人のところで青座布団が止まり、ポイントを獲得することができる。グループで振り返り、最もいい論点を出した人には「感心賞」として金座布団が贈られる。

<sup>4</sup> 1人だけ少数派の場合は、通常ルールと同じく金座布団が1枚もらえる。

表2 判断が難しかった葛藤場面（複数回答）

葛藤場面	人数
No. 24 卒業式の制服	47
No. 36 特別支援学級	39
No. 12 母親への謝罪	38
No. 33 授業優先	36
No. 22 わが子の不登校	33
No. 07 自作自演	29
No. 02 家庭訪問の拒否	26
No. 11 保護者が「休ませます」	24
No. 13 場面緘黙	24
No. 25 SCへの意見	22
No. 08 作文に書かれた家庭の悩み	21
No. 18 保護者からの電話やメール	21
No. 29 いじめ「誰にも言わないで」	21
No. 21 相性の合わない生徒	18
No. 03 学習障害	17
No. 27 相談室への保護者の要望	17
No. 31 教育相談担当の協調性	17
No. 09 学力合わない進路希望	15
No. 30 保健室登校の受け入れ	15
No. 14 問題行動の家庭への報告	14
No. 06 私語をやめない生徒	13
No. 01 バレンタインのチョコ	12
No. 15 教材へのクレーム	12
No. 23 相談室でのカードゲーム	10
No. 26 学級や担任になじめない子	9
No. 04 靴かかし	7
No. 19 不登校生徒の卒業式	7
No. 20 友達関係への介入	7
No. 28 「担任が怖いので嫌い」	7
No. 10 前任校の生徒からの相談	6
No. 16 保健室で走り回る生徒	6
No. 05 保護者への連絡	5
No. 35 部活動中の教師への悪口	5
No. 17 朝食を食べてこない生徒	4
No. 32 家庭訪問の同伴	1
No. 34 からかいの担任への報告	1

一方、意見が割れた項目は、No. 1, 7, 11, 12, 13, 18, 20, 22, 27などである。これらの葛藤場面を扱った問題カードでは、ゲームにおいてYESとNOの双方の意見が出やすいと考えられるため、活発なディスカッションが行われると予想できる。

表2において、特に判断が難しかった項目として上位に選ばれたのは、No. 24, 36, 12, 33, 22, 7, 2, 11, 13などであった。性同一性障害や発達障害、場面緘黙など配慮の必要な児童生徒への対応に関する場面や、保護者への対応・保護者連携に関する場面が特に難しいとされているようである。ただし、No. 22は他の項目とは質の異なる葛藤が扱われている。“教師としての仕事と、不登校のわが子へのサポートのどちらを優先させるか”という場面であり、教師としての考え方に加え個人的な価値観の影響も強く出ると考えられるカードとなっている。これらの問題カードも、参加者が大いに葛藤できるカードであると考えられるため、積極的に用いられるべきであろう。なお、もともと判断が難しかったとされたカードは、No. 24である。もうすぐ卒業式という状況の中で、ある女子生徒が男子の制服で式に出たいと言い出し、教育相談担当者が管理職に相談すると「本来の制服で出るよう説得してほしい」と言われる場面である。この問題について、ある教師は「式典という点において学校の言い分も分かるしできれば説得したいが、卒業式だからこそ自分の気持ちを主張してきている女の子の気持ちを察すると、説得してもいいものか…。本人にとっては一度きりの卒業式、本人のための卒業式と考えると悩む」と記述していた。このような葛藤が典型的であろう。回答傾向としては、YESが66.9%、Noが33.1%とYESのほうが多かった。YESと判断した者の意見としては、「その子の意思是尊重したいが、他の生徒や保護者の理解を得るには時間が十分に取れない」、「卒業式は儀式だから、混乱が起きてもいい」、「卒業式は儀式だから、混乱が起きてもいい」などの意見があった。一方、NOと判断した者からは、「基本的人権は尊重していくべきだと思う」、「周囲の目や理解が得られるかどうか悩んだが、卒業はある区切りをつける機会と考え、支援したいと考えた」などの意見があった。「性同

一性障害の人にまだ会ったことがなく、自分の引き出しだけで判断することが難しかった」というように実際にこのような事例を経験したことがない者も多く、それが判断の難しい項目の1位に選ばれた要因の1つであると推察されるが、「本人がどれほど強く願っているかを把握したい」、「保護者に相談し、保護者の意見を聞きながら最終判断をしたい」など状況をみながら判断を試みる意見も多くみられた。その他のカードについても、回答者のYES/NOの判断の背景にどのような考え方があるのか、また、どのような状況を想定して判断しているのかなどについて、多くの意見を得ることができた。

以上のように、「クロスロード 教育相談編」質問紙版を実施することで、教師の一般的な回答傾向に加え、具体的にどのように葛藤しやすいのか、どのような意見があるのかについての基礎的な資料を得ることができた。ゲームを実施した後に、ディスカッションをうながすための材料の一つとしてこれらの資料を提供することも非常に有意義であろう。

ただし、今回の調査で得られたデータは、A県の教師のみのデータであり、かつ対象者のうち42%が管理職であったため、これが教師の一般傾向と断定することはできない。今後は、さらにデータ数を増やして分析をすることが重要である。また、若手とベテランなど年齢・教職経験による回答傾向の比較や、管理職・一般教師・養護教諭・教育相談担当など立場による比較など詳細な分析を重ねることも必要であろう。

## 5. まとめ

「クロスロード 教育相談編」は新しい教材である。現在、この教材を用いて実際に校内研修を行ったり養護教諭を対象とした研修を行ったりするなど、実践を積み重ねているところである。研修の参加者からは、「楽しみながらもリアルな事例に触れることができ、考えさせられた」、「他の人の多様な意見を聞くことで、新たな発見があった」、「普段あまり話したことの少ないベテランの先生と率直に意見を交わすことができ、相談しやす



い雰囲気生まれたように思う」など、好意的な意見が多く聞かれている。今後は、さらに多くの教師に「クロスロード 教育相談編」を体験してもらい、その研修の効果を検証したいと考えている。

### 【謝辞】

本研究は、学術振興会の科研費・若手研究（B）の助成を受けて実施したものである（課題番号：23730613）。調査研究にご協力いただいた先生方に感謝いたします。

### 【引用文献】

- 網谷綾香（2014） 教師の成長を促す研修教材「クロスロード 教育相談編」開発の試み－教育相談における教師の葛藤の分析－ 佐賀大学教育実践研究，第31号，pp. 211-224
- 吉川肇子・矢守克也・杉浦淳吉（2009） クロスロード・ネクスト 続・防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション ナカニシヤ出版
- 梅崎高行・坂口美幸（2010） クロスロード発達支援者版（第1版）
- 矢守克也（2009） クロスロード質問紙版 吉川肇子・矢守克也・杉浦淳吉（2009） クロスロード・ネクスト 続・防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション pp. 67-76 ナカニシヤ出版
- 矢守克也・吉川肇子・網代剛（2005） 防災ゲームで学ぶリスク・コミュニケーション クロスロードへの招待 ナカニシヤ出版